

知事と市長の1対1対談

9月2日、保健福祉センターひだまりにおいて、三重県知事と鳥羽市長が「新型コロナウイルス感染症」をテーマに1対1の対談を行いましたので、概要をお知らせします。

企画財政課企画経営室

☎ 1101

対談に先立って

鈴木知事 政府が新型コロナウイルス感染症対策分科会の下に設けた「偏見・差別とプライバシーに関するワーキンググループ」の会議で、鳥羽の「STOP! コロナ差別」のチラシと中村市長が描いた絵本や陽性が確認されたかたへの支援について紹介した。

中村市長 チラシは報道番組でも話題になり反響が大きいです。

鈴木知事 「差別をやめましょう」というポスターは他にも



あるが、鳥羽のチラシはこういうことが差別になる」「じゃあ、どうすればいいか」が書かれているのが良い。

感染の疑いがあるかたの情報共有・検査体制について

中村市長 これから台風襲来時期となり、PCR検査の結果待ちのかたや感染者の濃厚接触者の避難も考える必要がある。市は感染者の個人情報を知りえない立場だが、避難所運営では事前対策が必要のため情報共有していただきたい。また、感染者や家族への支援策について本人に連絡が取れないため、県保健所から伝えてもらえるとありがたい。

鈴木知事 感染者情報はプライバシーに配慮しつつ市町に直接連絡する。通常、検査結果待ち段階での情報は連絡できないが、災害時は感染拡大防止のため特例的に伝える。

中村市長 市内の事業所で感染が発生した場合、消毒が

必要となるが、範囲や薬剤の選定に関する情報が乏しいため、県保健所から助言をいただくと助かる。

鈴木知事 どの立場のかたが感染し、どこを動いたかにより、消毒はケースバイケース。事前に範囲を教えるのは難しいが、他事例の紹介はできる。

中村市長 県外のかたで本市の施設利用後、陽性が判明したら、情報は入ってくるのか。

鈴木知事 県に連絡が入り、県保健所が施設への調査や消毒指導などを行う。

中村市長 PCR検査の結果が出るまで自宅待機と聞いているが、離島民の移動は容易ではないため、待機宿泊所の設置をお願いしたい。また、離島は容体急変時の搬送が難しく、陽性判定者は軽症でも県が用意する施設への優先入所をお願いしたい。

鈴木知事 帰国者・接触者相談センターで状況の聞き取りを行う際、離島に住んでいることが分かれば、抗原検査や唾液検査などの結果が早くわかる検査を選択し、宿泊の必要がないようにする。島民である旨を申し出ただきたい。また、現在は県内の感染者用ベッドに空きがあり、島民に限らず、軽症や無症状の

かたも病院で指導を受けていただく。

Withコロナ体制での学校生活の継続支援

中村市長 学校現場の負担軽減を図る「スクールサポートスタッフ」について、今年度はコロナ禍での負担増も考慮し、鳥羽にも配置していただいた。しかし、5学級以下の小規模校は対象外で、本市は13校中8校が該当しない。全校配置をお願いしたい。

鈴木知事 令和3年度以降の配置について県でも議論していく。また、線引きは国の基準であり、国とも協議したい。

観光の回復、インバウンド誘致の再開について

中村市長 コロナ禍で観光が大きな影響を受けた中、県内での教育旅行実施を後押しいただき、感謝申し上げます。外国人旅行者の誘致について今後の県の見通しを伺いたい。

鈴木知事 修学旅行は来訪先がそのまま継続されることも多い。官民挙げておもてなしに取り組んでいただきたい。インバウンド誘致はオンライン商談会などの新しいセールスや案内板などの整備を行う。クルーズ船については、

四日市港をモデルに万一場合の医療提供体制と検査体制のスキームを確認する。

落ち込んだ経済の回復と持続可能な漁業振興

中村市長 4～5月は高級魚を中心に出荷が落ち込み、浜値の下落や漁業者の漁自粛も見られた。生産者支援のため、「鳥羽ぎかなを食べよう」キャンペーンを予定しており、後押しをお願いしたい。

鈴木知事 三重県の水産物は秋冬が旬の物が多い。国のGo To Eatキャンペーンとも連動しながらぜひPRしたい。そのためには飲食店の感染防止対策も重要。

コロナ禍の中での気づき～新しい働き方について

中村市長 観光業は年間の繁閑差が大きく、平準化が重要。観光客だけでなく、短中期的に滞在するビジネス客の受け入れは、経営の多角化につながる。空き家や宿泊施設などを活用してテレワークができる「ワーケーション」体制を整えていく。県と一体となりセールスしていきたい。

鈴木知事 秋以降、県外企業とのマッチングに取り組み。しっかりと連携したい。